

学生大使派遣プログラム - 実施報告書

氏名：鎌田健太

所属：地域教育文化学部 地域教育文化学科 2年

派遣大学：ガジヤマダ大学(インドネシア)

派遣期間：3月3日～3月16日

◆日本語教室での指導内容

・現地の日本語教室は、10：00～11：30 と 13：30～15：00 の一日2回を月曜日から金曜日の週5日行った。Beginner(ひらがなが読めない)と advance(ひらがなが読める)に分けて授業を行った。

Beginner

- ・ひらがなの練習
- ・簡単な挨拶(おはようございます、わたしのなまえは〇〇です)

Advance

- ・日本語の道案内
- ・書き言葉と話し言葉の説明
- ・漢字(色・家族・体の部位・方角…)
- ・日本の祝日の紹介
- ・会話(小グループに分かれてテーマを決めながら)

Beginner と Advance

- ・ゲーム
(トランプ・カルタ・指スマ・あぶりカルビゲーム)



◆現地での交流活動

・平日の授業が終わった後や土日・祝日は、日本語クラスの学生にご飯や買い物に連れて行ってもらった。また、日本語クラスを担当している **Ipik** 先生にインドネシアの結婚式や食事会に連れて行ってもらった。毎日、ゲストハウスに学生が遊びに来てくれて、会話をしたり、トランプをして遊んだ。また、日本へ帰る前日には、お別れパーティーを開いてもらい、30人近くの人が集まり、楽しんだ。

◆プログラムに参加した感想

・今回のプログラムでは、多くの事を経験して学び、成長できたと感じている。インドネシアに行く前に、あらかじめ目標ややりたいことを決めていたことで、現地で積極的に行動することが出来た。

授業や授業以外の交流で日本語や日本文化を伝えたり、インドネシアの文化を教えてもらうことで、現地に行く前よりも、少しだけ日本文化を再確認することや、多文化を理解することが出来た。一番の収穫は、言葉や文化や宗教は違っても、心の中はインドネシア人も日本人も同じで、コミュニケーションを取ったり、楽しい瞬間や嬉しい瞬間を共有することは簡単に出来ると感じたことだと思う。

◆今後の展望

・今回のプログラムで、とても充実した生活が出来たため、また参加したいと思った。初めて外国で生活して、外国人と話すことで、自分の英語力不足を感じつつも、積極的に現地の人と会話することで、英語を話す楽しさを学ぶことが出来た。これからの大学生活では、今回の経験を生かし、何事にも積極的に挑戦したい。

